

(学校番号007)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室小学校】

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。反復や振り返りが十分に確保できていない。	⇒	授業の最初に前時の学習をミニテスト等で振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する【毎時間】。 書き込み式ドリルやドリルパーク、らっこたんの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する【週に1度】。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行ったり、スクールタッチボードを活用したりして、成果と課題を共有する【1か月に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「測定」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させる必要がある。児童主体の学習活動の機会が十分に確保できていない。	⇒	話を確実に聞くことを主眼に置いて指導を行う。また、評価規準を児童に示すことで、児童主体の振り返りが充実できるようにする【毎時間】。 教科横断的な視点や、体験的な学習を取り入れ、学びの深まりを意識したカリキュラムマネジメントを行う。【週に1度】。 ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定を行う【1か月に1度】。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する問題において課題が見られた。解答類型を見てみると、推敲前後の文章の違いを正しく読み取ることができていない児童が多く、文章を読み取る力が不十分であると考えられる。算数では、場面の数量の関係を捉え、式に表す問題において課題がみられた。問題文が長くなるほど、正答率が低くなる傾向がみられ、読書の量と質を向上させていくことが課題となる。R7年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいるか」や「自分に合った教え方、教材、学習時間であったか」に対する肯定的な回答の割合が大きい。今後も児童主体の個別最適な学びを進め、学ぶ楽しさが実感できる「本気で学ぶ」ことができる授業を創造していけるよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」では、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することにおいて課題が見られた。算数では、「数と計算」「データの活用」の領域において課題がみられた。示された情報を基に、必要な数値を読み取って式に表す力や複数のデータを比較しながら情報を収集していく力が不十分であると考えられる。また、学んだことを次の学習に生かしたり実生活に結び付けたりすることも課題となる。R7年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙「自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫している」や「次の学習や実生活に結び付けている」に対する肯定的な回答の割合は高い傾向にある。これまでの手立てを引き続き実践するとともに、ICTを活用した振り返りを充実させ、さらにその振り返りを次の学習に生かしていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評 価

A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)